

域のシンボル施設として存続可能であることなどの利点がある。また、教育、福祉、文化、産業、観光などにおける新たな地域振興の発信拠点として、可能性が見込める。

10月25日(火) 静岡県沼津市

▼沼津市リノベーションまちづくりについて

リノベーションまちづくりは、市内で増加する空き家などの民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設等の活用事業を通じ、新たな人材やコンテンツを呼び込み、市民にとって楽しいまちに生まれ変わることを目的としている。沼津市では、この事業に平成27年度から取り組んでおり、平成29年度には、豊かな地域を育むことを目標とし「沼津リノベーションまちづくりガイドライン」を策定した。

事業は多岐にわたり、令和元年度末時点において、延べ参加人数は約3千800人、創出事業数は46事業となっている。その一つとして、「週末の沼津」(公共の空間を活用した定期マーケット)の開催を支援している。この事業は、継続して開催されることで、起業や事業継承、ブランドインフラつなぐまちを動かすプラットフォーム的な役割やエリアの魅力を発信するショー

ケースとしてまちを知ってもらい、来てもらうきっかけとなることを意図している。将来の展望として、短期的には「既存ストックを生かす」リノベーションまちづくりを積極的に進めながら、事業の創出で変化の兆しが見え始めたエリアにおいて個々の事業化支援に加え、定期マーケットの開催や居心地の良い公共空間の活用、商業リブランディング支援などを戦略的に

行い、まちの期待値を上げ、エリア全体の価値を高めていくことを目指している。中長期的には、沼津駅周辺の公共空間を大きく変えていくことになり、リノベーションまちづくりの取り組みを通じて民間プレイヤーが育ち、新たに生み出される公共空間を使いこなすことで、まちに新たな価値や活力を生み出す、ヒト中心のまちづくりを目指している。



議会運営委員会

10月5日(水) 山梨県笛吹市

▼一問一答方式導入について

笛吹市議会は、質問・答弁の明確化を目的として、平成25年第1回定例会より一般質問において一問一答方式を導入実施した。

その効果として、質問・答弁内容が明確化されたことや、一つの質問事項について深く掘り下げて質問することができた。

▼議会と市民の意見交換会について

議会基本条例制定の検討中、議会報告会及び意見交換会を実施することとし、開催先の選考方法として、平成27年と平成28年は市民との意見交換会を実施、平成29年から令和元年にかけて、常任委員会毎に各種団体との意見交換会を開催した。令和3年度においては、議会報告会・意見交換会に代わる、市民からの政策提言・意見募集を行い、各委員会の回答を議会だよりに掲載した。

その効果として、各種団体(区長会・消防団・スポーツ協会・文化協会・観光協会・商工会等)との意見交換会では、常任委員会に関連する団

体と意見交換することで、その分野においてより深い意見交換を行うことができた。

10月6日(木) 新潟県燕市

▼議会におけるタブレット端末の導入について

議会におけるタブレット導入前の課題として、資料準備の煩雑さや持ち運びの負担、大量の議案等の資料整理の困難などが挙げられるほか、議員への情報提供における、電話やメールなど、個別の連絡手段への対応や正副議長の公務等のスケジュール管理の煩雑などが課題に挙げられた。これらの課題やペーパーレス会議の実現に向け、平成30年9月定例会から燕市議会は市側と同時にタブレットを試行導入、平成31年3月定例会より完全にタブレットへ移行した。

タブレットの導入と並行して、議会フロアの通信環境の整備を行い、議場及び委員会室にアクセスポイント(Wi-Fi)を設置した。タブレット導入の効果として、各種会議資料の共有・整理が可能となり、会議等で使用した資料が会議終了後には電子書籍として整理・格納され、さらに市の計画や報告書等も格納することにより、紙の資料を持ち歩くこと無く、

タブレット上でいつでも確認が可能となる。さらに検索機能により、必要な資料を探すことも可能。このほか、カレンダー機能を活用し、スケジュール調整に関する負担が軽減された。

導入後の課題として、積極的なタブレット活用を推進する中、私的利用の制限や資料を格納する際のフォルダ分けなど、ルール化が必要であること、議員個々の情報リテラシーの差が大きく、会期中以外はタブレットを使用していない議員も少なからずいることが挙げられた。

タブレットの導入により、資料を携帯できることで議員活動における市民への説明においても有用であること、市側においては、議案や協議会等の資料の印刷、配付、資料の差し替

えが発生した場合の人的作業が削減できることから、ペーパーレス化による自治体DXの推進が図られている。

